

2023年度 学校自己評価（幼稚園）

学校法人東海大学初等中等教育課

A～Eは教員評価（Aよい Bおおむねよい Cどちらともいえない Dやや不十分 E不十分）

| 分野 | 重点目標 | 成果と課題 | 評価 | 改善策 |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 園運営（分掌） | 保育・教育目標を明確にし、安全・安心な活動ができるように各分掌をが一体となつての園運営を実現する。 | 保護者アンケートの結果はどの質問にも8割を超える方から、5そう思う、4大体そう思うの評価を得ることができた。五段階評価においても4.7と昨年を1ポイント上回った。しかし教職員の同アンケートでは、各分野で保護者の評価を下回り五段階評価の平均値は4.2であった。ここに自らが認識できる課題が多く存在することがうかがえる。 | B | アンケートの結果を踏まえて自らが認識する改善を要する項目から優先的に対応する必要がある。 本園の特色(教育目標や教育環境)を保護者や地域に更に発信すること。 こどもたちの興味関心を呼び起こし探求心の芽生えを招来する図書の有効利用。 教職員個人の教育力を全体に広げるための連携・連帯を図る。 |
| 保育指導（教育課程・幼児指導） | 主体的に興味関心のある遊びや発達段階に応じた課題に意欲的に取り組み、生きる力を身につけられる保育・教育を展開する。 | 教職員の保育への取り組みについてのアンケート項目は多くの保護者に高い評価いただいている。 今年度は昨年度との比較で平均で1ポイント向上した。特に教職員の熱心さについては4.8と最も高く評価されている。 教育活動の内容、指導内容についても比肩し得る高評価につなげたい。 | A | 保護者参観や各行事において、子どもへのかかわり方や指導のあり方等をつぶさに見ていただき、成長の様子つまり保育・教育の成果が目に見えるように努力したい。 その中でアンテナをはり、課題を見つけながら指導方法について研究を進めたい。 |
| クラス指導 | 各学年の教育目標を取り込んで、学級運営と学年運営の充実を図り、特色あるクラス指導をする。 | 各クラスの運営・指導に関するアンケート結果は保護者・教職員ともに高い評価となっており教員も自負するところとなっている。園全体としての教育・保育への取り組みより、さらにクラス単位で具体的であり、子どもの感性や視点を通して伝わる部分も多く、各担任の取り組み等が評価頂けたものと感謝している。 | A | 経験の浅い若手から中堅・ベテランという三層の教員体制にあって、いずれも世代に応じた魅力を発揮している。若手の熱心さ、中堅の工夫と探求心、さらには経験豊かなベテランがそれぞれの持ち味を發揮している。しかし個人の力量に安心することなく各クラスに複数の目が届くように巡回等を繰り返し行いチームワークでの指導ができるようにしたい。 |
| 生活指導 | 発達段階に応じてコミュニケーション力を身につけ好ましい人間関係を構築するとともに規則正しい生活習慣を身につけ自立できる資質を身につける。 | 多様な家庭、多様な個性、多様な考え方や価値観の集合体に対して、一つの切り口からの向き合い方の生活指導は効果的とは言えない。その中において、見に見えることでの評価と子ども自身の明日以降の成長・発達への糧となる部分の目に見えないことへの評価がある。双方の評価を高める指導法の構築が求められる。 | B | 日々行う指導の在り方について検証し結果を蓄積することによりこども一人ひとりに向き合い個に応じた指導ができるように保護者や教員集団との連携を取りながら進めたい。 |
| 進路指導 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を実現し、小学校教育にスムーズにつないでいく。 | 今年度の教育目標の一つが就学前までに必要な学びを確立し、小学校での学校教育にスムーズにつなぐことであった。1年生への進級進学に関しては、宗像市の教育委員会や教育子ども部との連携のもと、さまざまな取り組みを実践している。子ども自身のスムーズな就学につなげるため、きめの細かい対応を行っている。 | A | 今年度は、東海大学付属こども園教育研修会の会場園としてまた、幼保小連携のための研修会の開催園として教育委員会・こども課小学校とも連携して教育目標についての研鑽を積むことができた。今後もさらに連携を強めていきたい。 |
| 特別活動 | 園行事や保育活動等の様々な体験・経験を通して、豊かな情操を培い、異なる学年との交流をはかりコミュニケーション力や創造力をたくましくする。 | 新型コロナウイルス感染症が5類相当となる中、これまで中止・縮小・分散としていた多くの行事を再開することができた。とは言え、以前の状態に完全再開とはならず、多様な行事による教育効果が十分に発揮されたとは言えないところがある。 | B | 前年度実施した代替プランが意外と良く、これまでを踏襲するだけでなく常に新しいプランや状況把握が必要であることがわかったため、これからは前例主義ではなく変化に柔軟に対応しながら最善の選択ができるようにプランの検討を重ねる行事を進めていきたい。 |
| 研修 | 常に教育改革等改善点を模索し園児・保護者が満足できる教育や運営をおこなう。 | 昨年同様受講が可能な限り、研修に積極的に参加した。 加えて本園が開催園となり実施した東海大学付属こども園教育研修会や宗像市の幼保小の保育・教育参観の会場園として企画する立場で研鑽を積むことができたことは大きな収穫となり成果となった。 | A | 業務体制・労働条件の範囲の中で受け得る研修には引き続き参加するよう促す。 更なる自己研鑽や現場に反映できるような幅のある研修にも参加し園全体で共有できる環境をつくりたい。 |